



学校だより 5月号

横浜市立日吉南小学校

令和5年4月28日

子どもたちを真ん中に

校長 山中 真紀子

若葉の美しい季節となりました。校庭には、休み時間だけでなく放課後も、ドッジボール、鬼ごっこと元気に走り回る子どもたちの姿が見えます。「一緒に遊ぶ」「コメントを書く」「声をかける」など、子どもたちの発達段階に合わせ、教職員も工夫して子どもたちとの関係づくりをする1か月でした。

すてきな表情

いつものように、各クラスを回っていると「校長先生、明るくなりましたね。」と声をかけられてしまいました。マスクが外れ、子どもたちの表情がよくわかるようになったと思っていましたが、子どもたちも同じように思っていたのでしょう。よく表情を見て、口元を見ています。今までと変わりなく過ごしていても、子どもたちにとっての印象は違うのかもしれませんが、今までとはちょっと違う校長先生、クラスの先生、クラスの友達、そんな気持ちで過ごす1か月だったように思います。

安心の場を

どの子も新しい学年、クラスで頑張っています。「そんなに頑張らなくていいよ。ありのままでもいいよ。」と声をかけてあげたいくらいでした。今は、この頑張りを価値づけし、「頑張れた自分もすてき」と感じさせてあげることが必要な時期でもあります。さらなる自信をつけ、さらなる成長へつなげることが大切です。「頑張らせた」「頑張らなくてよい」の加減が難しいところでもあります。また、学校での姿と家庭での姿が違うのは当たり前。おうちでのお子さんの様子を学校と共有させていただけるとありがたいです。どの子にとっても学校や家庭が安心できる場でありたいと考えています。小さなことで

も遠慮せずお伝えください。

家庭・地域と学校とのつながり

学校説明会、懇談会へお越しいただきありがとうございました。その中で、「学校は毎日がオープンスクールです。」「校長室を開きます。お越しください。」とお伝えしました。「校長先生と話すなんてとんでもない。よっぽどのがなければ、校長室なんて行きませんよ。」と言われたことがあります。少しさみしく、「よっぽどのこと」の前に話したいな、と思うことがありました。その場で答えを出すことは難しいかもしれませんが、日吉南小のこと、地域のこと、子どもたちのこと、我が子のことを、「これからのため」にたくさん話したいと思っています。「多くの人とつながり、ひよみに集う人を大切にする」「保護者や地域、子どもたちに関わる人と学校や教職員をつなぐこと」が校長の役目だと考えています。保護者・地域の皆様は、子どもや学校、教職員を大切に考えてくれています。また教職員や学校も「子どもを真ん中」に保護者・地域の皆様に大切にしています。昨今の教育や学校現場の今を知っていただき、「子どもを真ん中」に、アイデアを出し合い、工夫して、学校を作っていくことができると思います。保護者・地域の皆様の思いを知ることで、よりよい学校運営に活かしていきたいと考えています。



子どもたちを真ん中に、子どもたちにとってよりよい教育が行われるように全職員で力を尽くしてまいります。保護者・地域の皆様のご理解とご支援のほどよろしくお願いいたします